

令和3年度 看護学部3学年シラバス

<前期>

英語Ⅲ	…P 1 ～
英語Ⅳ	…P 8 ～
成人看護学Ⅲ	…P 1 5 ～
成人看護学Ⅳ	…P 2 2 ～
救急・クリティカルケア	…P 2 9 ～
エンドオブライフケア	…P 3 4 ～
小児看護学Ⅱ	…P 4 1 ～
老年看護学Ⅱ	…P 4 8 ～
精神看護学Ⅱ	…P 5 5 ～
在宅看護論	…P 6 1 ～
家族看護論	…P 6 7 ～
感染看護学	…P 7 3 ～
医療安全学	…P 7 9 ～
公衆衛生看護学Ⅱ	…P 8 5 ～
災害看護学Ⅱ	…P 9 1 ～

<後期>

地域包括ケア論	…P 9 7 ～
公衆衛生看護学Ⅲ	…P 1 0 2 ～
公衆衛生看護学Ⅳ	…P 1 0 8 ～
助産学Ⅰ	…P 1 1 3 ～
助産学Ⅲ	…P 1 1 9 ～
看護研究Ⅰ	…P 1 2 5 ～
急性期看護学実習	…P 1 3 2 ～
慢性期看護学実習	…P 1 3 8 ～
母性看護学実習	…P 1 4 4 ～
老年看護学実習	…P 1 5 0 ～
小児看護学実習	…P 1 5 7 ～
精神看護学実習	…P 1 6 3 ～

区分名： 表現力を培う

科目名： 英語 3 (English III)

教員名： Tor Duffin (トア ダッフイン)

開講年次： 3年次 学期：2021年度・前期 選択

授業形態：演習, 単位数：1単位, 時間数：30時間

概要：

- To acquire English communication skills essential for the nursing profession.
- For students to gain enough confidence to be able to use what they learn during the course for future work purposes – especially for conversing directly with foreign patients and colleagues.

学習目標：

Students will be given opportunities to use the language through a variety of practical tasks. They will be introduced to:

- Specialist vocabulary and key grammatical structures.
- Ways to build interpersonal skills for patient relations.
- Listening and speaking exercises in real work situations.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : *Nursing 1* (Tony Grice), OXFORD UNIVERSITY PRESS.

参考書 : Students are assessed and given a total score on the following basis:

Final written test: 60% of the total; class participation: 20%; attendance: 20%.

その他 (メッセージ等) : Students must attend a minimum of two thirds of all lessons, or you will be automatically failed. Please participate fully in class, and don't worry about making mistakes. I'll be happy to answer any questions you have, so please don't hesitate to ask at any time. Let's enjoy the course together!

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1 回	U.1) The hospital team (1)	Vocabulary: Describing jobs Listening 1: An admission
第 2 回	The hospital team (2)	Listening 2: A job interview Grammar: Present simple v. present continuous tense Speaking: Talking personally
第 3 回	U.2) In and around the hospital (1)	V: Hospital departments Pronunciation: Where is the stress? G: Prepositions of place and movement Sp: Describing a picture
第 4 回	In and around the hospital (2)	L1/Sp: Giving directions L2: The porter's office
第 5 回	U.3) Hospital admissions (1)	V: 1. The admissions procedure; 2. Patient record
第 6 回	Hospital admissions (2)	L: A patient record form Sp: Admitting a patient G: Past simple v. past continuous tense
第 7 回	U.4) Accidents and emergencies (1)	V: First aid G: Imperatives Sp: Emergency helpline
第 8 回	Accidents and emergencies (2)	L: Instructions Signs & symptoms: Shock
第 9 回	U.5) Pain (1)	V: Describing pain L1: A pain chart G: Making comparisons

第 10 回	Pain (2)	L2: Pain relief P: Words containing <i>ar / er / ir / or / ur</i> Patient care/Sp: Questions to assess pain V: Areas of referred pain
第 11 回	U.6) Symptoms (1)	L1: Symptoms G: Question forms
第 12 回	COURSE REVIEW / TEST	
第 13 回	Symptoms (2)	S&S: Night coughing L2: A helpline call Sp: Asking questions on a helpline V: Tongue diagnosis
第 14 回	U.7) Caring for the elderly (1)	L1: A care home S&S: Alzheimer's disease G: <i>will</i>
第 15 回	Caring for the elderly (2)	V: 1. Problems and aids; 2. The effects of ageing L2: Assessing a patient Sp: Transfer to a care home
第 16 回	U.8) Nutrition and obesity (1)	V: 1. Nutrition; 2. Diabetes L1: A diabetic person
第 17 回	Nutrition and obesity (2)	Sp: Calculating BMI G: <i>should / shouldn't</i> L2: An eating disorder
第 18 回	U.9) Blood (1)	V: Testing blood L1: Blood types Sp: Blood in history
第 19 回	Blood (2)	L2: A blood test G: Zero and first conditional V: The heart
第 20 回	U.10) Death and dying (1)	V: 1. Talking about dying; 2. The body after death L: Report of a death
第 21 回	Death and dying (2)	G: Expressing possibility Sp: 1. Preparing a body for relatives 2. Euthanasia
第 22 回	U.11) Hygiene	V: Hygiene equipment L: A hygiene report
第 23 回	COURSE REVIEW / TEST	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 IV (English IV)

教員名：中山 仁

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：英語のパラグラフ・ライティングの基礎を習得するための演習を行う。具体的にはパラグラフの基本構造と典型的なライティングのプロセスを理解した上で、身近なテーマについて実際にパラグラフを書く演習を行う。

なお、下記の授業内容は使用テキスト、および、授業進度状況によって予定を変更することがあるが、基本的な履修内容に差異はない。また、必要に応じて英文法の基礎力を維持するための演習を行う。

学習目標：1) 英語のパラグラフと、日本語の段落との違いを説明できる。

2) 英語の文章をパラグラフ単位で正確に理解できる。

3) 論理展開が明確で、適切な英語表現を用いたパラグラフを書くことができる。

4) 必要な英語表現を効率よく調べたり、検索したりすることができる。

5) 英語の句読法を正しく使える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

- 参考書：1) 語句の意味や用法をじっくり確認したい場合：『ウィズダム英和辞典』（三省堂）、『ジーニアス英和辞典』（大修館）
- 2) 語句の説明と用例が充実した辞書アプリ（iOS版）：ウィズダム英和・和英辞典（第4版／第3版）（物書堂）

- 3) 上記に加え、語句の意味を英語でわかりやすく説明する方法を知りたい場合：
 Longman Dictionary of Contemporary English (Longman)
 Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford University Press)
- 4) 語句のつながり方の実例や、表現に適した語句の選択を確認したい場合（オンライン英和・和英辞書）：英辞郎 on the Web（無料）、英辞郎 on the Web Pro（有料）（アルク）

成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：15回の授業の中で、少なくとも9つのセンテンスから成る1つのパラグラフを作り上げるスキルが段階的に身につくようになるプログラムです。論理的な文や話し方について理解できれば、それを日本語にも応用できます。英語と日本語の「伝える力」を学ぶ数少ない機会を提供しています。

例年受講者は意欲的に取り組んで、自分のことを英語で表現することに楽しみを感じています。その中身を実感したい人は受講をおすすめします。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イントロダクション	Formatting; Process writing
第2回	センテンスとパラグラフ(1)	Topic; Strong/Weak paragraph (1)
第3回	センテンスとパラグラフ(2)	Topic; Strong/Weak paragraph (2)
第4回	トピックとトピック・センテンス(1)	Topic sentence (1); Conjunctions
第5回	トピック・センテンス(2)	Topic sentence (2): Skills to improve topic sentences
第6回	サポート(1)	Supporting sentences (1) (Types)
第7回	サポート(2)	Supporting sentences (2) (Exercises)
第8回	結論	Concluding sentences; Capital letters
第9回	導入	Introductory sentences
第10回	プロセス・ライティング(1)	Process writing (1)
第11回	プロセス・ライティング(2)	Brainstorming; Word maps; Listing
第12回	プロセス・ライティング(3)	Organizing; Review; Editing
第13回	性格描写(1)	Adjectives to describe personalities
第14回	性格描写(2)	Paragraph writing exercise
第15回	推敲のためのスキル	Proof reading; Peer reviewing

第 16 回	因果関係(1)	Cause and effect (1)
第 17 回	サポート文を改善するスキル	Using English dictionaries
第 18 回	説明のためのパラグラフ	Enumeration
第 19 回	比較	Double listing to brainstorm
第 20 回	因果関係(2)	Cause and effect (2)
第 21 回	データの説明(1)	Describing data, figures and tables (1)
第 22 回	データの説明(2)	Describing data, figures and tables (2)
第 23 回	まとめ	Review Quiz

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：成人看護学Ⅲ（Adult NursingⅢ (Acute)）

教員名：片桐和子、菅野久美、佐藤菜保子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：急性期にある対象の特徴と看護師の役割を踏まえ、手術療法を受ける対象の周術期看護について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

一般目標：手術や疾患による健康状態の急激な変化がある人とその家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面への影響を踏まえ、健康の早期回復と保持・増進を促す援助について理解し、看護の実際について体験学習する。

行動目標：

1. 急性期・周術期看護の特徴について述べることができる。
2. 麻酔や手術による生体への侵襲について述べることができる。
3. 手術を受ける人とその家族の身体・精神・社会・スピリチュアル的側面への影響について述べることができる。
4. 手術室看護師の役割について述べることができる。
5. 手術を受ける人とその家族の特徴を踏まえ、その人の機能回復・合併症予防・苦痛緩和、及び、家族を含めた心理・社会的支援のために必要な援助について述べることができる。
6. ドレーン管理、術直後の観察の実技演習を通して、根拠を踏まえて必要な援助技術を習得できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる態度、スキルを示せるこ
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		とが単位認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：雄西智恵美、秋元典子：成人看護 周手術期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカ

ワ、2014（平成24年）

参考書：授業時に提示する

成績評価方法：講義・演習への参加度、課題提出物、出席状況、定期試験結果により評価する。

その他（メッセージ等）：1、2年次で学習した内容を基盤に、発展させていく授業展開となります。しっかり学んだことを復習すると共に、提示したテキストを精読し、疑問点を明確して、授業に臨んでください。また、演習に向けて課題を提示しますので、事前学習を踏まえて演習に臨んでください。

3年後期の実習に繋がる重要な科目になります。疑問点など質問したり、何故そうなるのかの根拠を文献を通して理解を深め、主体的に学習していく習慣を確立していくことが大切になります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	急性期の概念、急性期の特徴	急性期にある患者・家族の特徴と看護師の役割
第2回	周術期の看護：術前	手術を受ける患者・家族の特徴、術前看護、周術期オリエンテーション、周術期リハビリテーション
第3回	周術期の看護：術前	術前検査とその意味
第4回	周術期の看護：術前	術前アセスメント
第5 - 6回	手術と麻酔の侵襲	侵襲、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝反応、サードスペース、サイトカインによる生体反応、SIRS、Mooreの回復過程
第7 - 8回	周術期における麻酔法	全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、麻酔を受ける患者の全身管理（呼吸・循環管理）
第9回	周術期の看護：術中	手術室看護師の役割、術前訪問、手術室環境管理、消毒法、術中体位、体温管理など
第10回	周術期の看護：術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症予防（後出血とショック）
第11回	周術期の看護：術後	術後の機能回復・合併症予防（縫合不全、深部静脈血栓症、呼吸器合併症など）、苦痛緩和、心理・社会的支援
第12回	周術期の看護：術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症予防、苦痛緩和、心理・社会的支援
第13-15回	手術により健康状態が	肺切除術を受ける人の看護：開胸術により呼吸機能

	急激に変化する人の看護（1）	が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩関節硬縮予防
第 16-18 回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（2）	胃切除術を受ける人の看護：摂取機能の低下に対する援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・食の楽しみを考慮した援助
第 19-20 回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（3）	大腸切除術を受ける人の看護：排泄に伴う羞恥心や自尊心、性機能障害を考慮した援助、イレウス予防・改善のための援助、ストマケア
第 21-22 回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（4）	乳房切除術を受ける人の看護：上肢リンパ浮腫予防・緩和、関節可動域障害の予防、ボディイメージの変容に対する援助、セクシュアリティに関する援助
第 23 回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（5）	手術体験者の語り 入院中に看護師に依頼したいこと、退院後の生活上の困難点、がんサバイバー
第 24 回	術後ドレーンを挿入している人の看護	ドレーンの目的・方法・種類、ドレーンを挿入している人の特徴及び援助
第 25-27 回	周術期の看護：演習（2）	ドレーン管理の実際
第 28-30 回	周術期の看護：演習（3）	術後患者のアセスメント

区分名： 看護の実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：成人看護学Ⅳ（Adult NursingⅣ）

教員名： 井上 水絵、菅野久美、片桐和子、横山 郁美、佐藤菜保子、他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：成人期にある健康障害をきたした事例を通し、年齢や発達段階における特徴、身体的・心理社会的特性を総合的に理解し、看護展開を通じて必要な情報を整理し、アセスメント技術と個別的な看護計画立案方法を学び、必要な看護技術を習得する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標

（一般目標）

1. グループワークを通じて、成人期にある健康障害をきたした対象者の生体機能の障害とそれに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を理解し、回復・適応への援助技術、および患者教育のための技術を説明できる。

（行動目標）

1. 成人期にある健康障害をきたした対象者とその家族を包括的にアセスメントする方法を実施できる。
2. アセスメントを統合して対象の全体像を理解し、看護上の問題を明らかにすることができる。
3. 明らかにした看護問題に対して看護目標を設定し、個別性を踏まえた期待される結果を考え、看護計画を立案する。
4. 看護計画では、看護目標(期待される結果)および根拠に基づいた看護技術や援助方法を選択し、具体的な内容を考えることができる。
5. グループワークや全体発表を通して、成人期にある健康障害をきたした対象のについて自分の考えを述べることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
--	--	---	-------------------------------------	--

テキスト： 必要に応じて講義の中で紹介する

参考書： 看護過程展開ガイド：仁和子、プチナーズブックス、照林社

成績評価方法：出席状況、講義後のアンケート提出、グループディスカッション、個人・グループワーク課題提出物により総合的に判断する

その他(メッセージ等)：成人期にある健康障害をきたした対象者の事象をアセスメントし、合併症の予防と早期の回復、苦痛の緩和、そして、対象者とその家族にとって、病気とともに生きること、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について個人・グループワークを通じ学習し、実習に繋がられるよう主体的に取り組んでいきましょう。

*講義内容・予定は変更することがあります。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1,2回 5月25日	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 成人慢性期及び急性期の看護過程の展開と記録の活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 演習の目的、方法、日程の説明 看護過程の展開とアセスメント方法 <ul style="list-style-type: none"> ①ゴードンの機能的健康パターン11の枠組みを用いたアセスメント ②全体像の理解と関連図作成 看護過程を展開するための成人看護学実習記録用紙の活用方法・書き方(基本情報用紙、アセスメントシート、問題リスト、看護計画用紙、指導案)
第3回 5月25日	事例紹介(慢性期)	<ul style="list-style-type: none"> 肝硬変患者の看護事例、急性骨髄性白血病患者の看護事例、糖尿病教育入院患者の看護事例、慢性腎不全の血液透析患者の看護事例 情報収集
第4,5回 6月8日	看護過程の展開(個人ワーク)	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報用紙、アセスメントシート、問題リスト、看護計画の作成
第6,7回 6月8,22日	看護過程の展開(グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> 個人ワークで抽出した看護問題、アセスメントを発表 グループメンバーで各自発表した看護問題や

		<p>アセスメントについてディスカッションし、看護問題の整理・抽出を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表された看護問題の中から、1つの看護問題を選び（例：優先順位が高い、看護介入の必要性がある等）、その看護計画を作成する ・ 必要時、指導案、パンフレットを作成する
第 8, 9 回 6 月 22 日	成果発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護問題、看護計画（必要時パンフレット）の発表 ・ 質疑応答 ・ 講評
7 月 6 日 第 10, 11 回	事例紹介（急性期） 看護過程の展開 （個人ワーク）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃切除、大腸切除術、乳房切除術、肺切除術事例予定、情報収集、情報を統合し関連図を作成、問題の明確化、
7 月 6 日 第 12 回	看護過程の展開 （個人ワーク）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回に引き続き残った課題を行う、看護計画立案
7 月 20 日 第 13, 14, 15 回	看護過程の展開 （グループワーク）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ワークで作成した関連図、看護問題を発表し、グループで内容を検討、整理する ・ 各自から抽出された看護問題から、最も優先順位の高い（あるいは特徴的な）問題をひとつ選択し、グループとして看護計画を完成させる。 ・ 各 4 事例から代表グループを抽選
	成果発表、講評	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各事例の代表グループ発表×4 およびディスカッション： 同事例グループからの追加意見や講評、 他グループからの質疑応答×4 ・ 実習指導者及び教員からの講評　まとめ

区分名： 看護実践を支える科目

科目名(英語名称含む):救急・クリティカルケア(Critical Care and Emergency Nursing)

教員名： 菅野久美・片桐和子・鈴木学爾・他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修/選択：必修

授業形態：演習，単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：救急医療およびクリティカルケアにおける生命危機状態にある対象の特徴と看護の役割について学習する。フィジカルアセスメントや救急処置などの基本的知識や技術を修得し、生きる(いのちと生活)を支える救急・クリティカルケア看護について考えを深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

(一般目標)

1. 救急医療およびクリティカルケアの対象となる人や家族の特徴と体験を理解する。
2. 救急医療体制の変遷と現状を学習し、看護の役割を理解する。
3. フィジカルアセスメントやファーストエイドなどの基本的知識や技術、態度について学習する。
4. 救急医療およびクリティカルケア看護の実際と課題について学習する。

(行動目標)

1. 救急医療の現状とその問題を説明できる。
2. 救急患者および生命の危機状況にある患者とその家族の特徴を説明できる。
3. ファーストエイドとしての一次救命処置：Basic Life Support (BLS)や応急手当てについて、小児・成人の特徴を理解しその技術を習得できる。
4. 災害時の医療およびトリアージの基本的な考え方について説明できる。
5. 救急医療および看護の場面における課題について関心持ち、自己の考えを深めてその内容を述べるができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上

		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	実践の基盤となる知識と技術を統合させた実践の修得の機会がある。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。 (学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	● 実践の基盤となる知識と技術を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△ 実践の基盤となる知識と技術を統合させた実践の修得の機会がある。
		②	看護の実践	
		③	看護を統合する科目	
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○ 模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	

		⑤	安全で効果的なケアを探索し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定なし

参考書： 授業時に提示する

成績評価方法： 定期試験 60%、授業への参加度 20%、課題レポート 20%で総合的に評価する。尚、単位修得のためには、2/3 以上出席が必要です。授業 30 分以上の遅刻、30 分前の退室は欠席となります。一次救命処置演習は重要ですので必ず出席してください。

その他（メッセージ等）： 学生が主体的に考え、最新の知識・技術を修得し、積極的に学びとる授業です。生きる（いのちと生活）を支える看護について一緒に考えましょう。

授業内容(学習項目)

回数	日時	項目	内容
第1回	5/12(水)Ⅳ 13:00～14:00	救急・クリティカル ケア看護の概念 救急患者への対応①	コースオリエンテーション 救急・クリティカルケア看護の概念 救急医療の変遷、救急患者の特徴 (菅野)
第2回	5/12(水)Ⅴ 14:10～15:10	救急患者への対応②	対象者の理解とフィジカルアセスメント BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第3回	5/19(水)Ⅳ 13:00～14:00	救急看護の実際①	対象の理解とフィジカルアセスメント BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第4回	5/19(水)Ⅴ 14:10～15:10	救急看護の実際②	災害時の救急看護およびトリアージ (菅野)
第5回	5/26(水)Ⅳ 13:00～14:00	救急看護の実際③	救命救急センター看護師によるプレホスピタルケ ア、フライトナースの役割、院内救急 (宮崎看護師)
第6回	5/26(水)Ⅴ 14:10～15:10	救急看護の実際④	救命救急センター看護師によるプレホスピタルケ ア、フライトナースの役割、院内救急 (宮崎看護師)
第7回	6/2(水)Ⅳ 13:00～14:00	救急看護の実際⑤	小児救急看護 (鈴木学爾先生)
第8回	6/2(水)Ⅴ 14:10～15:10	ICU 看護の実際①	クリティカルケア看護の実際 呼吸・循環を中心とした全身管理と看護ケア (菅野)
第9回	6/9(水)Ⅳ 13:00～14:00	ICU 看護の実際②	クリティカルケア看護の実際 PICS：集中治療後症候群予防のためのケア (菅野)
第10回	6/9(水)Ⅴ 14:10～15:10	ICU 看護の実際③	クリティカルケア看護の実際 救急・集中ケアにおけるエンドオブライフケア (菅野)
第11回	6/16(水)Ⅳ 13:00～14:00	ICU 看護の実際④	重症集中治療看護の専門性と実際 (ICU 井上看護師)
第12回	6/16(水)Ⅴ 14:10～15:10	救急・クリティカル ケア看護に関する法 律や倫理	救急・クリティカルケア看護に関連する法律や倫理 (菅野)
第13回	6/23(水)Ⅳ 13:00～14:00	演習：1 成人 BLS 演習：2 小児救急	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ。 (脇屋先生および担当教員)
第14回	6/23(水)Ⅴ 14:10～15:10	演習：1 成人 BLS 演習：2 小児救急	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ (脇屋先生および担当教員)
第15回	6/30(水)Ⅳ 13:00～14:00	救急・クリティカル ケア看護のまとめ	救急・クリティカルケア看護の課題 (菅野)

区分名： 看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：エンドオブライフケア（End-of-life care）

教員名：佐藤菜保子、井上水絵、横山郁美、和田久美子、齋藤史子、三浦浅子、他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ，必修/選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：看護師には終末期にある患者とその家族についてのケアが求められている。この科目においては、終末期にある患者と家族の理解を深め、その人らしい生を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、人間の生死について自分なりの考えを深めるとともに、他の人の考え方や価値観を尊重できる態度を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）

1. 終末期にある患者とその家族が直面する諸問題や体験について理解する。
2. 終末期にある人の看護を実践する上で必要な知識、技術、態度について学習する。

（行動目標）

1. 終末期医療に関する概念（ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア）について説明できる。
2. 死に向かう人々の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。
3. 終末期にある患者とその家族が体験する身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を説明できる。
4. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。
5. 終末期にある人の看護における看護の役割を述べることができる。
6. 終末期にある患者とその家族を支えるための保健医療システムや社会資源について説明できる。
7. 学習のプロセスを通し自分の死生観について述べることができる。
8. 終末期にある人の看護に関する文献を読みテーマをあげて自分の考えを記述することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を		

			認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：

1. 梅田恵、射場典子編集：緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ技と心. 南山堂. 2011
2. 鈴木志津枝、内布敦子編集：緩和ケア・ターミナルケア看護論. ヌーベルヒロカワ. 2011
3. 佐藤禮子監修：絵で見るターミナルケア 人生の最後を生き抜く人へのかぎりない援助. GAKKEN. 2010
4. 嶺岸秀子、千崎美登子編著：がん看護の実践1 エンドオブライフケアのがん緩和ケアと看取り. 医歯薬出版社. 2008

成績評価方法：出席、課題、試験により総合的に判断する

その他（メッセージ等）：人間の生や死に着いて学ぶことを通して自分なりの死生観について考えを深めて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回 6/7	終末期医療に関する概念・歴史・現状	緩和ケアの歴史、定義、死生観、わが国の緩和ケアの現状、様々な場における終末期ケア
第2-3回 6/14	終末期にある患者と家族の看護（1）	トータルペイン（全人的苦痛）、死にゆく人の心理・悲嘆経過、家族の悲嘆経過とそのケア
第4-5回 6/21	終末期にある患者と家族の看護（2）	がん看護専門看護師の役割（患者・家族・遺族ケア）、看護師への教育（1）
第6-7回 6/28	終末期にある患者と家族の看護（3）	小児期における終末期看護 老年期における終末期看護
第8-9回 7/5	終末期にある患者と家族の看護（4）	終末期における症状緩和と看護
第10-11回 7/12	終末期にある患者と家族の看護（5）	海外の終末期ケアの実際 がん看護専門看護師の役割（患者・家族・遺族ケア）、看護師への教育（2）

第 12-13 回 7/27	終末期にある患者と 家族の看護 (6)	緩和ケア病棟におけるチーム医療 (
第 14-15 回 7/27	在宅療養患者および 家族の終末期にある 人の看護	在宅緩和ケア・在宅での緩和ケアの実際

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：小児看護学Ⅱ（Nursing Care for Children）

教員名：和田久美子，古溝陽子，鈴木学爾，白土朝子，その他

開講年次：3年次，学期：2021年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義／演習 ，単位数：3単位 ，時間数：45時間

概要：新生児期から青年期（思春期）にある対象者とその家族について理解し、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行える知識、技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 子どもの権利を理解し、子どもやその家族を個として尊重することの意味を説明できる。
2. さまざまな発達段階と健康レベルにある子どもと家族に対して、その状況に応じた看護援助を説明できる。
3. 小児保健・医療・福祉・教育の中における小児看護の役割を説明できる。
4. 専門職業人としての態度を習得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：随時提示する

参考書：随時提示する

成績評価方法：課題、試験等を合わせて評価する。

その他（メッセージ等）：「小児看護学Ⅰ」で学んだ、子どもの発達段階の特徴について復習して臨んで下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション 医療を体験する子どもの看護	オリエンテーション 健康障害が子どもと家族に与える影響、 子どもの意思決定
第2回	小児の健康障害①	感染症
第3回	小児の健康障害②	
第4回	症状と看護①	発熱、嘔吐、下痢、呼吸困難、脱水
第5回	症状と看護②	
第6回	症状と看護③	
第7回	小児の健康障害③	アレルギー疾患
第8回	小児の健康障害④	リウマチ性疾患、神経疾患
第9回	症状と看護④	けいれん、痛み
第10回	子どものヘルスアセスメント	子どもとのコミュニケーション・関係作り、 情報収集、アセスメント
第11回	子どものヘルスアセスメント	
第12回	検査処置を受ける子どもの看護	子どもとの関わり方、採血、経口与薬、末梢静脈内点滴
第13回	活動制限のある子どもの看護	子どもにとっての活動制限、子どもに与える影響
第14回	活動制限のある子どもの看護	
第15回	医療保育専門士の役割と活動	医療保育、遊び、連携
第16回	外来受診・通院する子どもの看護	外来の役割と看護
第17回	外来受診・通院する子どもの看護	
第18回	児童虐待のある子どもの看護	虐待の要因・発見、援助者の姿勢
第19回	【演習】子どもと家族のアセスメント	アセスメント方法
第20回	【演習】子どもと家族のアセスメント	
第21回	【演習】子どもと家族のアセスメント	
第22回	【演習】子どもと家族のアセスメント	
第23回	【演習】子どもと家族のアセスメント	
第24回	【演習】子どもと家族のアセスメント	
第25回	【演習】まとめ	
第26回	【演習】まとめ	
第27回	【演習】まとめ	
第28回	小児の健康障害⑤	循環器疾患
第29回	小児の健康障害⑥	消化器疾患
第30回	手術を受ける子どもの看護	多期的手術、麻酔の影響、成長発達への影響
第31回	手術を受ける子どもの看護	

第 32 回	小児の健康障害⑦	新生児疾患、染色体異常
第 33 回	小児の健康障害⑧	内分泌疾患、代謝性疾患
第 34 回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の特徴、ディベロップメンタルケア、家族への影響
第 35 回	ハイリスク新生児の看護	
第 36 回	ハイリスク新生児の看護	
第 37 回	小児の健康障害⑨	血液・腫瘍疾患
第 38 回	小児の健康障害⑩	腎・泌尿器疾患
第 39 回	健康障害をもつ子どもの看護	慢性疾患、成長発達への影響、セルフケア能力、家族への影響
第 40 回	健康障害をもつ子どもの看護	
第 41 回	障がいをもつ子どもの看護	成長発達への影響、家族への影響
第 42 回	障がいをもつ子どもの看護	
第 43 回	発達障害をもつ子どもの看護	発達障害の子どもの特徴
第 44 回	成人への移行期にあるひとへの看護	移行期医療、意思決定支援、ライフイベントに応じた支援
第 45 回	成人への移行期にあるひとへの看護	

区分名:看護実践を支える科目

科目名(英語名称含む):老年看護学Ⅱ(Gerontological NursingⅡ)

教員名:坂本 祐子, 齋藤 史子, 佐々木 千佳, 杉本 幸子

開講年次:3年次, 学 期:2021年度前期, 必修

授業形態:講義・演習, 単位数:3単位, 時間数:45時間

概要:

加齢に伴う変化と高齢者特有の健康障害が生活に及ぼす影響について理解し、Quality of Life の向上を目指した効果的な看護援助の実際について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標:

1. 高齢者特有の健康障害の成り立ちと生活への影響について理解する。
2. 高齢者の健康障害に特徴に適した援助方法について理解する。
3. 認知症と認知機能障害が高齢者の生活に与える影響について理解する。
4. 高齢者の生活を支援する社会資源について理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
Ⅰ. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せる

				ことが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを採求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト:

1. 北川 公子, 他: 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版, 医学書院
(2020年度“老年看護学Ⅰ”指定テキスト 購入済)
2. 鳥羽 研二, 他: 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論, 第5版, 医学書院

参考書:

1. 山田律子編: 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図第3版, 医学書院
2. 奥宮暁子編: ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版, 医歯薬出版株式会社
3. 正木 治恵編: パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護 第2版, 照林社

成績評価方法: 全講義数の3分の2以上出席した学生が成績評価の対象となる。

評価は、筆記試験(70点)、演習A(20点)、演習B(10点)の合計点で評価する。

その他: 4年次生「高齢者への看護学実習」と並行開講のため教員への質問は、全て ryoyo@fmu.ac.jp 宛にメールでお願いします。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	コースオリ／老年看護学Ⅰ復習	高齢化社会の疫学 老年看護に活用できる理論・概念
第2回	高齢者の生活機能を整える看護① 転倒予防1	高齢者の基本的活動 転倒のアセスメント
第3回	高齢者の生活機能を整える看護① 転倒予防2	転倒発生時の対応、転倒後のケア 再発防止
第4回	高齢者の生活機能を整える看護② 排尿障害1	排尿障害の特徴、生活に与える影響
第5回	高齢者の生活機能を整える看護② 排尿障害2	アセスメント、ケア、排尿自立
第6回	高齢者の生活機能を整える看護② 排便障害	原因・誘因、生活への影響、排便調整
第7回	高齢者に生活機能を整える看護③ 感覚器障害	白内障、難聴

最8回	高齢者の生活機能を整える看護④ 睡眠障害	睡眠の変化、睡眠障害
第9回	治療を必要とする高齢者の看護① 外来看護	外来看護、検査
第10回	治療を必要とする高齢者の看護② 薬物療法	薬物動態の変化、薬物有害事象
第11回	治療を必要とする高齢者の看護③ 手術療法	術前看護、早期離床、有害事象の予防
第12回	治療を必要とする高齢者の看護④ 退院支援	入院に伴う環境の変化、退院支援 介護保険制度
第13回	健康逸脱から回復を促す看護① うつ、せん妄	老年期うつ、せん妄
第14回	健康逸脱から回復を促す看護② 呼吸器疾患	肺炎、誤嚥性肺炎、COPD
第15回	演習 A:事例①	事例検討の進め方 高齢者における看護過程
第16回	健康逸脱から回復を促す看護③ 皮膚障害	褥瘡、皮膚掻痒症、疥癬
第17回	健康逸脱から回復を促す看護④ 骨折・骨粗しょう症	骨折、骨粗しょう症
第18回	健康逸脱から回復を促す看護⑤ 廃用症候群	廃用性症候群、リハビリテーション
第19回	健康逸脱から回復を促す看護⑥ 感染症	尿路感染、白癬、胃腸炎
第20回	高齢者施設におけるケア①	高齢者施設と入所者の特徴
第21回	高齢者施設におけるケア②	高齢者施設における看護職の役割
第22回	高齢者の生活機能を整える看護⑤	摂食嚥下障害
第23回	摂食嚥下障害	(摂食嚥下障害看護認定 Ns.早川)
第24回	演習 A:事例②	現疾患シートについて
第25回	演習 A:事例③	高齢者のアセスメント
第26回	演習 A:事例④	
第27回	演習 A:事例⑤	
第28回	高齢者と災害	避難所生活、避難難民、福祉避難所
第29回	演習 B:新たな高齢者への援助を創造する①	単元①～④オリエンテーション、GW
第30回	認知症①	診断と治療(Dr.川勝)
第31回	認知症②	認知症看護の基本、PCC
第32回	認知症③	生活機能の評価とアセスメント 生活・療養環境づくり
第33回	演習 A:事例⑥	看護課題、目標、看護計画
第34回	高齢者看護の倫理的課題	身体拘束
第35回	認知症④	外来、家族ケア (認知症看護認定 Ns.田辺)
第36回	認知症⑤	コミュニケーション(PSW 加藤)
第37回	認知症⑥	急性期医療機関における認知症看護

		(認知症看護認定 Ns.渡邊)
第 38 回	演習 B:新たな高齢者への援助を創造する②	GW
第 39 回	演習 B:新たな高齢者への援助を創造する③	GW
第 40 回	演習 B:新たな高齢者への援助を創造する④	発表
第 41 回	演習 A:事例⑦	看護計画、評価
第 42 回	演習 A:事例⑧	
第 43 回	在宅医療	奥会津在宅医療プロジェクト (会津医療センターDr.山中)
第 44 回	エンドオブライフケア	エンドオブライフケア、意思決定支援 ACP(結の学校所長 Ns.沼崎)
第 45 回	まとめ	

区分名： 看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：精神看護学Ⅱ（Mental Health Nursing Ⅱ）

教員名：大川貴子・田村達弥・佐藤利憲・吾妻陽子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：精神の健康上の問題をもつ人に対してどのようにアプローチしたらよいかが考えられるよう、講義および演習を行なう。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 精神の健康問題をもつ人が体験する世界について理解する。
2. 精神医療の歴史と法律および倫理について理解する。
3. 精神看護を実践するための枠組みを理解する。
4. 主要な精神疾患の病理・症状・看護のポイントについて理解する。
5. 地域で生活する精神障害者の支援方法を理解する。
6. セルフケアのアセスメントおよびケアプランの作成ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せること

					が単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		を示せることが単位認定の要件である
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		用できることが単位認定の要件である
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：開講時に提示する

成績評価方法：最終試験：80%

事例展開：20%

その他（メッセージ等）：精神の健康問題について、時には自分にひきつけ、時には自分と距離をおいて考えていきましょう。精神看護の奥の深さを感じとってもらえると嬉しいです。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	オリエンテーション	
第2回	精神医療の歴史	社会的背景・わが国の精神保健医療福祉の現状
第3回	精神の健康問題をもつ人の理解	ピアサポーターによるリカバリーストーリーの発表
第4回	精神の健康問題をもつ人の理解	ピアサポーターによるリカバリーストーリーについてグループワーク
第5回	精神医療における倫理	精神保健に関する法律・人権擁護
第6回	精神看護の枠組み	セルフケア・リカバリー・ストレングス・対人関係論
第7回 ～ 第12回	統合失調症患者へのアプローチ	統合失調症について疾患・治療の理解 統合失調症患者への看護アプローチ
第13回 第14回	地域で生活する精神障害者へのアプローチ	精神保健福祉制度・訪問看護
第15回	精神科医療における作業療法の理論と実際	作業療法
第16回 ～ 19回	気分障害患者へのアプローチ	気分障害についての疾患・治療の理解 気分障害患者への看護アプローチ
第20回 ～ 第22回	事例検討(1)	グループワーク・公開事例検討会
第23回 ～ 第25回	事例検討(2)	グループワーク・公開事例検討会
第26回	知的障害者へのアプローチ	知的障害者の理解・アプローチ方法
第27回	自閉症スペクトラム障害患者へのアプローチ	自閉症スペクトラム患者の理解・アプローチ方法
第28回	パーソナリティ障害患者へのアプローチ	パーソナリティ障害患者の理解・アプローチ方法
第29回	アルコール依存症患者へのアプローチ	アルコール依存症の理解・アプローチ方法
第30回	事例展開の解説	事例展開に関する解説

区分名：看護の実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：在宅看護論（Home Care Nursing）

教員名：高橋香子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：在宅療養者とその家族の生活および健康課題について理解し、さらに在宅療養を支える保健医療福祉等の法制度、ケアシステムについて学ぶ。また、在宅看護の特徴と機能を理解するとともに、在宅療養支援の方法、継続看護と退院支援、チームケアの重要性について学び、在宅ケアにおける看護職の役割について探求する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1)在宅看護に関連する概念、在宅看護の機能について説明できる。

2)在宅療養を支える社会資源と多職種協働について説明できる。

3)在宅看護が対象とする個人・家族への支援とその方法について説明できる。

4)退院支援と継続看護の意義、看護職の役割について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件で
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		ある
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づい た看護の実 践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。	—	修得の機会がない
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	—	修得の機会がない

テキスト：指定しない。

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：出席状況（15%）、授業への参加度（15%）、課題レポート（20%）、期末レポート（50%）により総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：在宅療養者・家族の立場に立ってどうすべきかを考え、積極的に授業に参加すること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1-3 回	在宅看護の目的と特徴 在宅看護の法制度	在宅ケア、在宅看護、地域包括ケア、法制度
第 4-6 回	在宅看護を支える社会資源	在宅ケア、在宅看護、社会資源
第 7-9 回	在宅看護の対象者と家族への支援	在宅療養者の生活と健康課題、家族の介護力
第 10-12 回	在宅看護過程①	情報収集・アセスメント
第 13-15 回	在宅看護過程②	計画立案・実践・評価
第 16-18 回	在宅看護の実際	在宅療養者の医療ニーズ、訪問看護の実際 医療依存度が高い療養者・終末期患者およびその家族への支援
第 19-21 回	在宅ケアシステムと関係機関・職種との連携	在宅療養を支える歯科医師の役割
第 22-24 回	在宅ケアシステムと関係機関・職種との連携	在宅療養を支える薬剤師の役割
第 25-27 回	在宅ケアシステムと関係機関・職種との連携	退院支援、退院調整、継続看護、切れ目のない看護実践
第 28-30 回	在宅ケアにおける看護職の役割	在宅療養者とその家族への支援において看護職に期待される役割

区分名： 看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）： 家族看護論 （ Family Nursing ）

教員名： 和田久美子 中村由美子 菅野久美 井上水絵 大川貴子 佐々木千佳 篠原好江 高瀬佳苗

開講年次： 3 年次， 学 期： 2021 年度 前 期 ， 必修／選択： 必修

授業形態：講義 ， 単位数：1 単位 ， 時間数：15 時間

概要：現在の社会的、文化的背景に応じた家族を理解し、多様な家族のあり方を学ぶ。また、看護学において対象となるさまざまな状態にある家族への援助を考える基本的な方法を学ぶ。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1) 家族および 家族看護とは何かを理解できる。

2) 家族看護の基盤となる理論を理解できる。

3) さまざまな状態にある家族を理解し、支援する方法を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		定の要件である
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
	オリエンテーション	
第1回	家族看護学の概念	家族とは 家族看護とは 家族看護における看護職の役割
第2回	家族の構造と機能	家族の形態・機能
第3回	家族看護の基盤となる理論	家族発達理論 家族システム理論
第4回	さまざまな状態にある家族への看護①	健康障害をもつ子どもの家族への看護①
第5回	さまざまな状態にある家族への看護②	健康障害をもつ子どもの家族への看護②
第6回	さまざまな状態にある家族への看護③	救急医療・集中治療における家族への看護
第7回	さまざまな状態にある家族への看護	慢性疾患をもつ患者の家族への看護

	看護④	
第8回	さまざまな状態にある家族への看護⑤	精神疾患をもつ患者の家族への援助①
第9回	さまざまな状態にある家族への看護⑥	精神疾患をもつ患者の家族への看護②
第10回	さまざまな状態にある家族への看護⑦	高齢者患者の家族への看護①
第11回	さまざまな状態にある家族への看護⑧	高齢者患者の家族への看護②
第12回	さまざまな状態にある家族への看護⑨	セクシュアル・マイノリティと家族①
第13回	さまざまな状態にある家族への看護⑩	セクシュアル・マイノリティと家族②
第14回	さまざまな状態にある家族への看護⑪	在宅介護を行う家族への看護①
第15回	さまざまな状態にある家族への看護⑫	在宅介護を行う家族への看護②

テキスト：講義の中で随時紹介

参考書：講義の中で随時紹介

成績評価方法：レポート 100%

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：感染看護学（ Infectious Nursing Science ）

教員名： 佐藤 博子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：看護専門職業人として働く場合は、病院はもとより在宅看護、地域と様々であり質保証として感染看護学は重要である。種々の感染症が流行した場合に対応するための疫学的な視点も求められる。感染防止に関する基礎知識をもとに感染防止に必要な方策を学び、様々な状況に対応するための基盤となる考え方を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

- 学習目標：1) 感染看護学の重要性について説明できる。
2) 感染管理に関する基礎知識について説明できる。
3) 病院、施設における感染管理の実際について説明できる。
4) 様々な状況における感染防止の対策について説明できる。
5) 感染症対策の法的側面について学びグローバルな視点での感染対策について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	習得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 指定しない

参考書： 講義内で提示する

成績評価方法： 授業の出席状況 10%、レポート 30%、試験 60%により評価する。

その他（メッセージ等）： 看護の専門性と感染看護についての理解を深め、専門職として基盤となる感染防止に対する知識と行動が行えるように学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	感染看護とは	感染看護学の位置づけと学びの目的 職業感染防止への対応
第2回	感染対策	1) スタンダードプリコーション
第3回 第4回	感染防止の基礎知識と看護技術	2) 感染経路別予防対策を隔離法 3) 手洗い 4) 防護用具 5) 洗浄・消毒・滅菌 6) 検体の取り扱い
第5回	職業感染防止への対応	自己状況の把握 他者への影響について考える
第6回	公衆衛生における感染症対策	世界の感染症とパンデミック対策
第7回	薬剤耐性菌の基礎と感染管理	感染症の原因となる様々な微生物と病院施設での取り組み
第8回 第9回	医療施設における感染管理の実際(1)	病院における感染対策チーム(ICT)および感染管理認定看護師(ICN)の活動
第10回 第11回	様々な状況における感染状況と対策	感染対策の事例
第12回 第13回	感染と看護ケア	差別と偏見
第14回	まとめ	感染管理の現状と課題
第15回	医療施設における感染管理の実際(2)	医療施設における感染対策の事例

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）： 医療安全学 （ Medical safety science ）

教員名：4月着任教員

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修/選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：医療の質を高めるために欠かせないのが医療安全の確保である。医療事故の種類や構造、ヒューマンエラー発生のメカニズムについて事例を通して読み解き、医療事故を防止するための基本的な考え方を学ぶ。さらに医療安全に向けた組織的な取り組みを理解し、多職種連携の必要性へ理解を深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：医療安全を確保するために、医療事故発生の種類や構造・ヒューマンエラーを学び、事故防止していくために必要な基本的な考え方を修得する。

行動目標

1. 医療安全を学ぶ医療事故の定義と事故発生の要因、構造がわかる。
2. 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーが理解できる。
3. 医療事故に関する法的な責任を理解する。
4. 医療事故防止のための方法、組織的な事故防止対策がわかる。
5. 多職種が連携した医療安全について考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	取得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：河野龍太郎著：医療におけるヒューマンエラー第2版 医学書院

川村治子著：医療安全ワークブック第4版、医学書院

成績評価方法：筆記試験、出席状況、参加態度、レポートを総合して評価する

その他（メッセージ等）： 実際におきた医療事故、看護事故の事例をもとに、医療事故防止に必要な基礎的な知識を学びます。福島県立医科大学医学部附属病院医療安全管理部発行「医療安全ポケットマニュアル」を使います毎回持参しましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	医療安全を学ぶ意義	医療安全とは、医療安全の歴史
第2回	医療事故について	医療事故の定義
第3回	医療事故報告について	インシデント・アクシデント報告
第4回	医療事故発生の構造（1）	医療事故発生のメカニズム
第5回	医療事故発生の構造（2）	医療事故の分析
第6回	ヒューマンエラー（1）	ヒューマンエラーとは何か
第7回	ヒューマンエラー（2）	ヒューマンエラーと安全
第8回	医療事故防止対策（1）	環境への働きかけ
第9回	医療事故防止対策（2）	KYT・医療安全研修
第10回	医療安全とチーム（1）	ノンテクニカルスキルとチーム STEPPS
第11回	医療安全とチーム（2）	チーム STEPPS
第12回	医療安全と法的責任	医療安全に関連した法律について
第13回	医療安全と倫理	医療安全と倫理
第14回	組織的な事故防止対策（1）	組織的な医療安全
第15回	組織的な事故防止対策（2）	リスクマネージャーの役割

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：公衆衛生看護学Ⅱ（Public Health Nursing Ⅱ）

教員名：阿久津和子、古戸順子、秦暁子、鹿俣律子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 選択/必修：選択

授業形態：講義演習，単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：地域の特性をアセスメントし健康課題を明らかにするための考え方、地域診断の理論およびその方法を習得する。地域診断に基づく計画策定・実践・評価に関する基礎的知識と技術、実践方法について理解を深める。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 公衆衛生看護活動における地域診断とは何かについて学ぶ。
- 2) 公衆衛生看護活動における地域診断の実践的な手法について学習する。
- 3) 地域診断を基盤とする行政の場における公衆衛生看護活動について学ぶ。

学習目標（行動）：

1. 地域診断の目的，意義，必要性を述べることができる。
2. 既存のデータ等を用いて地域診断の過程を修得することができる。
3. 地域診断に基づいて健康問題を明確にし，説明することができる。
4. 地域診断に基づいた公衆衛生看護活動の方法について述べるすることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ン	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院

参考書 : 荒賀直子・後閑容子編 : 公衆衛生看護学 jp 第 5 版. インターメディカル
 金川克子, 早川和生監訳 : コミュニティ・アズ・パートナー

地域看護学の理論と実際 第 2 版 医学書院.

成績評価方法 : 出席状況・講義・演習への参加態度 (20%) 筆記試験 (50%) 課題提出物 (30%)
 による総合評価

その他 (メッセージ等) : 地域アセスメントの展開過程の学習においてグループワークを取り
 入れていますので主体的に臨み、また欠席することのないよう
 体調管理に留意しましょう。

授業内容 (学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1- 3 回	公衆衛生看護活動の考え方	公衆衛生看護活動、目的、特徴
第 4- 6 回	地域診断の展開過程	展開過程、地域診断の対象
第 7-1 2 回	地域診断の展開過程	情報収集、量的・質的データ
第 1 3-2 1 回	地域診断の展開過程	データの整理・分析
第 2 2-3 0 回	地域診断の展開過程	健康課題の要因・背景、アセスメント 健康課題の抽出
第 3 1-3 6 回	地域診断の展開過程	関連性の検討、優先順位
第 3 7-3 9 回	地域診断に基づく 地域保健活動の計画づくり	地域保健活動の計画づくり 保健事業の計画づくり
第 4 0-4 2 回	地域診断に基づく 地域保健活動の実際	自治体での保健師活動
第 4 3-4 5 回	地域診断に基づく 地域保健活動の評価・改善	地域保健活動の評価・改善、 保健事業計の評価・改善、PDCA サイクル

毎週月曜 IV-VI限

区分名： 看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）：災害看護学Ⅱ（ Disaster Nursing Ⅱ ）

教員名：橋本 真由美、佐藤 美佳

開講年次：3年次，学 期：2021年度 前期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：自然・人為・特殊災害等の発生時において必要な看護の知識と技術を学修する。また、福島が経験した原子力放射線災害による人々や社会への影響、とくに災害時に生じる健康や生活上の問題、人々の反応について理解し、看護の役割を探究する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 災害時の看護活動を述べることができる。
2. 災害時に必要な多職種連携について述べるができる。
3. 模擬傷病者体験や机上訓練から、被災者や救援者の心理について考察することができる。
4. 放射線災害による人々や社会への影響、健康上の問題について述べるができる。
5. 様々な場における倫理的配慮について考察できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係が無い
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：メディカ出版ナーシンググラフィカ 災害看護

参考書：多職種連携で支える災害医療 医学書院、災害看護 学研、

成績評価方法：筆記試験（50％）課題（30％）出席率・GWへの貢献度（20％）で、総合的に判断する。

その他（メッセージ等）：災害時には、非日常の中、多職種間で協働し自分にできることは何かを自ら探し支援していくことが必要になります。普段できないことは災害時にもでき

ません。授業を通して、自己の能力と課題を明確にしていきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目概要、学習内容 ・科目の評価方法
第2回	災害時の看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識・技術について ・多職種連携の中での看護の役割について
第3回	外傷への看護	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の外傷について ・外傷への対応、搬送
第4回	DMATでの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・DMATの役割 ・実際の活動について
第5回	トリアージ	・トリアージについて
第6回		・トリアージ演習
第7回	災害時の病院での対応	・災害時の体制
第8回		<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れについて ・平常時の備え
第9回	放射線災害看護	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線の基礎 ・外部被ばくと内部被ばく ・放射線の測定/実技:サーベイメータの取り扱い
第10回		<ul style="list-style-type: none"> ・放射線の健康影響 ・放射線被ばくりスクアセスメント
第11回		<ul style="list-style-type: none"> ・被ばく医療の特徴と被ばく医療体制 ・放射線災害における看護職の役割
第12回		・放射線健康リスクコミュニケーション
第13回		避難所での看護活動
第14回	倫理的配慮	・災害各期における倫理的配慮
第15回	試験	筆記試験

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：地域包括ケア論（Community-based Integrated Care）

教員名：高瀬佳苗、大川貴子、菅野久美、古溝陽子、杉本幸子

開講年次：3年次， 学 期：2021年度後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

別表1 公衆衛生看護学—個人・家族・集団・組織の支援、公衆衛生看護活動展開論、公衆衛生看護管理論

別表3 専門分野—成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学

統合分野—在宅看護論

概要：地域包括ケアを取り巻く社会的背景や現状、諸課題を通して、地域包括ケアシステムに関する基礎的・基本的な内容を理解するとともに、地域包括ケアの推進における多職種連携の意義および看護職の役割について学習する。

保健師、助産師、看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1)地域包括ケアを推進する必要性と基本理念について説明できる。

2)様々なライフステージ、健康レベルにある人々への地域包括ケアについて説明できる。

3)地域包括ケアにおける関係機関・職種との連携、協働について説明できる。

4)地域包括ケアにおける看護職の役割と機能について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する		

			重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献

(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）	担当
第1～3回 1/31 I～III限	地域包括ケアの必要性と基本理念 地域包括ケアにおける多職種連携	地域包括ケアを取り巻く社会的背景、 基本理念、多職種連携	高瀬
第4～6回 2/2 I～III限	子育て世代を対象とした地域包括 ケアと看護職の役割	子育て世代が抱える健康課題、子育て 世代包括支援センター、多職種連携と 看護職の役割	古溝
第7～9回 2/7 I～III限	高齢者を対象とした地域包括ケア と看護職の役割	高齢者を対象とした地域包括ケアの実際、 退院調整、在宅ケア、訪問看護、多職種 連携と看護職の役割	杉本
第10～12回 2/9 I～III限	精神障害者を対象とした地域包括 ケアと看護職の役割	精神障害者の社会復帰、自立、社会参加へ の支援、多職種連携と看護職の役割	大川
第13～15回 2/14 I～III限	地域包括ケアにおける継続看護と 看護職の役割	継続看護、地域連携、多職種連携と看護職 の役割	菅野

テキスト：特に指定しない

参考書：随時紹介する

成績評価方法：出席状況、課題への取り組み等により総合的に評価し、60点以上を合格とする。テキスト：

その他（メッセージ等）：この科目では、複数回の課題レポートの提出が求められます。事前および事後の学習を行い、計画的に課題に組みましょう。

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：公衆衛生看護学Ⅲ（Public Health NursingⅢ）

教員名：阿久津和子、古戸順子、秦暁子、鹿俣律子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ， 選択/必修：選択

授業形態：講義・演習 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：住民や関係者との協働による地域づくりや地域の健康課題解決の方法について学習する。地区組織や住民グループの育成・支援に関する基本的知識と技術について学び、コミュニティ・エンパワメントをめざした保健師の組織支援について理解を深める。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 住民や関係者との協働により展開する公衆衛生看護活動の目的と方法を説明できる
2. 地区組織や住民グループの育成・支援における保健師の役割を述べるができる
3. 演習のグループ活動では、他のメンバーと議論を行ない、協力して課題を達成することができる

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件で
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③ チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		ある
		④ 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目	—	修得の機会がない
		② 倫理性を高める科目		
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門	① 看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		② 看護の実践		

	職者	③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：標美奈子他：標準保健師講座 1， 2， 3 医学書院

参考書：荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学 jp 第 5 版．インターメディカル

成績評価方法：出席状況・講義への参加態度（20%）筆記試験（50%）課題提出物（30%）による総合評価

その他（メッセージ等）：地域看護学Ⅰ・Ⅱや地域看護学実習、公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱの授業内容と関連づけながら学びましょう

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1-3回	公衆衛生看護における地区組織活動	歴史、概念、考え方、組織の種類
第4-6回	地区組織活動の展開①	育成・支援、組織化、 コミュニティ・エンパワメント
第7-9回	地区組織活動の展開②	発展過程、保健師の役割
第10-12回	地区組織活動の実際	自治体での活動の実際
第13-15回	まとめ	

第1～9回 IV-VI限、第10-15回 I～VI限

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：公衆衛生看護学Ⅳ（Public Health Nursing Ⅳ）

教員名：高橋香子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：公衆衛生看護管理の目的、前提条件、管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成・人事管理、情報管理、健康危機管理）について学習し、保健師の専門性について理解を深める。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：1)保健師が担う公衆衛生看護管理の目的とその前提条件について説明できる。

2)公衆衛生看護管理機能について説明できる。

3)公衆衛生看護管理の観点から保健師の専門性について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	— 修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件で
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門	

			職者の役割について説明できる。		ある
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：出席状況、授業への参加・課題への取り組み状況、レポートにより総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲで学習した内容をふまえて授業に参加するようにしてください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1-3回	公衆衛生看護管理機能(1)	公衆衛生看護管理機能の目的、前提条件
第4-6回	公衆衛生看護管理機能(2)	事例管理、地区管理、事業・業務管理
第7-9回	公衆衛生看護管理機能(3)	情報管理、予算管理、組織運営管理
第10-12回	公衆衛生看護管理機能(4)	人事管理・人材育成、健康危機管理
第13-15回	公衆衛生看護管理と保健師の専門性	公衆衛生看護管理の実際

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅰ Midwifery Ⅰ

教員名：篠原好江、大内美奈

開講年次：3年次、学 期：2021年度後期、必修／選択：選択

授業形態：講義、演習、単位数：2単位、時間数：30時間

概要：

助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。具体的には、助産過程、助産診断、母子保健の動向および関係法規を学習し、助産師の役割と責任について考える。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。
- 2) 助産過程及び助産診断の目的を理解し、その意義を学ぶ。
- 3) 助産及び母子保健の変遷を理解する。
- 4) 助産師の役割と責任を理解する。
- 5) 助産及び助産師のあり方を考察する。
- 6) 妊産婦を対象としたコミュニケーション技術の基礎を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		単位認定に関係ない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		用できることが単位認定の要件である
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

工藤美子編：助産師基礎教育テキスト第1巻 2020年版 日本看護協会出版会

吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第2巻 2020年版 日本看護協会出版会

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻 2020年版 日本看護協会出版会

堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院.2020

横尾京子編：助産学講座6 助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕 妊娠期 医学書院.2020

参考書：

成績評価方法：課題発表とレポート

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目) (30回)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	助産の概念	助産とは、助産の対象
第2回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第3回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第4～6回	助産師と倫理	助産師の倫理綱領
第7～12回	助産学研究	助産師の倫理綱領、助産実践と研究
第13回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第14回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第15回	助産過程と助産診断	妊娠期・胎児期の助産過程
第16回	助産過程と助産診断	分娩期の助産過程
第17回	助産過程と助産診断	産褥期・新生児期の助産過程
第18回	助産過程と助産診断	女性のライフサイクルにおける助産過程
第19回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第20回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第21回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第22回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第23回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第24回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第25～27回	人間のセクシュアリティ	人間の性と基本的人権、価値と多様性
第28～30回	妊産婦を対象としたコミュニケーション技術	課題発表

区分名：看護実践を支える科目

科目名（英語名称含む）：助産学Ⅲ MidwiferyⅢ

教員名：太田昌一郎、石井佳世子、大内美奈、非常勤講師

開講年次：3年次 学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：講義、演習 ， 単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：

妊娠期の女性と胎児およびその家族の健康レベルを診断し必要なケアを提供する。また、家族を含め、新しい役割取得ができるように援助するために、診断技術およびケア技術を学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 基礎知識

1) 解剖生理

助産診断・技術を学ぶにあたって必要な女性生殖器および女性の骨盤の局所解剖学的知識を、実際の標本に触れて確認する。

2) 助産に必要な基礎知識と形態機能

①分娩の三要素の機能と妊娠および分娩に伴う変化を理解する。

②妊娠および分娩の経過を理解する。

③妊娠および分娩経過に伴う母体の生理的变化を理解する。

2. 妊娠期の助産診断と支援

1) 妊娠期の助産診断を理解する。

2) 妊婦と家族を中心とした妊娠期のケアの特徴を理解する。

3) 正常経過からの逸脱に対する助産診断とケアを理解する。

4) 妊娠期の助産過程を展開する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者と

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		しての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場 に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場 に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重		

		要性を説明できる。	
--	--	-----------	--

テキスト：

- 吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第2巻 2020年版 日本看護協会出版会
 森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻 2020年版 日本看護協会出版会
 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第5巻 2020年版 日本看護協会出版会
 横尾京子編：助産師基礎教育テキスト第6巻 2020年版 日本看護協会出版会
 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 2020年版 日本看護協会出版会
 堀内成子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院. 2020
 横尾京子編：助産学講座6 助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院. 2020
 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 医学書院. 2020
 横尾京子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院. 2020

成績評価方法：課題提出・発表、演習、筆記試験

授業内容(学習項目)

1. 基礎知識 (21回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1～3回	基礎知識	解剖整理 解剖生理:肉眼解剖実習
第4～21回	基礎知識	助産に必要な基礎知識と形態機能

2. 妊娠期の助産診断と支援 (24回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1-6回	妊娠期の助産診断	1) 妊娠期の助産診断の項目 2) 妊娠各期の助産診断の特徴 3) 経過の診断 4) 健康生活診断 5) 予測診断
第7-9回	妊娠期の助産診断	助産師による超音波診断：講義と演習
第10-12回	妊娠期のケア	妊婦と家族に対するケア
第13-15回	正常からの逸脱	正常経過からの逸脱に対する助産診断とケア
第16-18回	事例展開	妊娠期の助産過程の事例展開
第19-21回	妊娠期の支援	妊婦からの声
第22-24回	妊娠期の支援	出産準備教育

区分名： 看護を統合する科目

科目名（英語名称含む）：看護研究 I (Nursing Research I)

教員名： 菅野久美 他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習，単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：科学的知識体系を発展させるための看護研究とその方法論（質的研究方法論、量的研究方法論）の基礎的知識を学び、疑問あるいは課題として捉えた現象を解決するための研究のプロセスを活用できる能力を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）

1. 看護研究の定義や意義について学習する。
2. 看護現象に存在する疑問あるいは課題を科学的に探求する。
3. 文献検索のスキルと文献検討の基本を学習する。
4. 看護の質を向上させるための看護研究方法論の基礎を学習する。
5. 研究計画書作成の基本を学習する。

（行動目標）

1. 看護研究の意義と看護実践へのつながりを説明できる。
2. 講義・演習・実習で気づいた看護現象の疑問を、研究の問いとして科学的に探求できる。
3. 看護研究における倫理的配慮について説明できる。
4. 文献検索と文献検討の基本的な方法を説明できる。
5. 質的なアプローチの研究デザインと研究方法の概要を説明できる。
6. 量的なアプローチの研究デザインと研究方法の概要を説明できる。
7. 研究計画書作成の方法を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できること が単位認 定の要件で ある
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 特に指定なし

参考書： 授業時に提示する

成績評価方法： 定期試験 60%、講義への参加度および課題提出 40%で評価します。

尚、単位修得のためには、2/3 以上出席が必要です。

その他（メッセージ等）： 看護研究の面白さを発見し、楽しみながら基本的知識を学んでいきしょう。4年生前期開講の看護研究Ⅱへつながる授業ですので、積極的に参加してください

* 授業予定および内容は、変更の可能性がありますので、連絡事項を確認しておいてください。

授業内容(学習項目)

回数	日時	項目	内容
第1回	2/1(火) ④⑤⑥	看護研究について	オリエンテーション 研究とは何か 看護実践とのつながり 研究の目的・意義、研究のプロセスを学習する。 文献とは何か
第2回		研究の問いとは	研究の問いへの絞りこみを学習する。 講義・演習・実習で気づいた看護現象の疑問について演習する。
第3回		主な研究方法	質的研究①について
第4回	2/8(火) ④⑤⑥	主な研究方法	質的研究②について
第5回		看護研究と倫理	研究における倫理とは何か、研究を進めていくために不可欠な倫理的配慮について学習する。
第6回		主な研究方法	量的研究①について
第7回	2/15(火) ④⑤⑥	主な研究方法	量的研究②について
第8回		研究計画書の作成①	研究計画書の作成の意義とその方法について学習する
第9回			

第10回		研究計画書の作成②	研究計画書作成に必要な文献検索および文献検討の方法について学習する。
第11回	2/22(火) ①②③	文献検索演習	自分の「研究の問い」に関する文献を検索し、文献カードを作成する。
第12回		文献検索演習	小グループで各自の文献カードを発表し、その内容についてディスカッションを行う。
第13回	2/22(火) ④⑤⑥	グループワーク発表	グループワークの成果について発表する。
第14回		グループワーク発表	グループワークの成果について発表する。
第15回		看護研究の公表・成果の活用	全体のまとめ

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：急性期看護学実習（Adult Nursing (Acute) Practicum）

教員名：片桐和子、菅野久美他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ，必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：急性期にある成人から老年期の人を対象とし、主に周術期における看護展開について実習を通して学ぶ。実習に臨んでは、既習の科目を振り返り、対象の看護を実践するにあたり必要な知識および技術を復習・確認する。

実習目的；健康障害をもち、手術療法を受ける人やその家族を多面的に理解し、患者とその家族との人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、手術侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する能力を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 手術療法に関するストレス・危機状態にある患者・家族を擁護し、回復に向けた患者・家族の意思決定を支えることができる。
2. 手術や麻酔侵襲による対象の病態生理的变化を理解し、身体的苦痛の緩和や合併症を予防し、早期回復するための援助ができる。
3. 手術療法によって変化した身体の形態・機能、それに伴う生活の変化を理解し、生活能力の獲得のために保健医療チームと共同して社会資源の活用についての援助ができる。
4. 患者の健康の保持増進をめざして、保健医療チームの一員としての働きかけができる。
5. 患者・家族との適切な人間関係を築くことができる。
6. 目的意識を持って実習を行い、自己学習能力を養い、根拠のある看護実践ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

				単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		識を示せることが単位認定の要件である。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：適宜提示・紹介する。

参考書：適宜提示・紹介する。

成績評価方法：急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他（メッセージ等）：急性期にある人の看護学実習では、周術期にある患者を受け持ちます。周術期にある患者は、日々・時間ごとの状態変化が速い・大きいという特徴があります。実習目的に関連した授業内容についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。実習は臨地で生の現実での学びであるため、また、易感染状態の患者様と関わるため学生自身の体調管理が重要となります。

授業内容(学習項目)

手術を受ける患者を1～2名受け持ち、周術期看護の看護過程を展開する
 詳細は急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

区分名： 看護の実践

科目名（英語名称含む）：慢性期看護学実習（Chronic nursing practicum）

教員名： 井上 水絵，横山 郁美，佐藤 菜保子他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ，必修／選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：長期にわたる疾病管理が必要で、治癒することが困難な慢性疾患及び機能障害を持つ、成人期または老年期にある患者と家族に対し、慢性疾患の特徴を理解し、全体像をとらえ、看護上の問題点および必要な看護支援を修得する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

実習目的：慢性的な健康問題を持つ患者の、身体的、精神的、社会的な影響を理解し、生涯にわたって必要となるセルフマネジメントの獲得を支援し、生活の再構築し、QOLの維持・向上を計るために必要な看護に関する知識と実践能力を修得する。

実習目標：

1. 慢性疾患を持つ患者と家族の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面を多面的にとらえ全体像を把握し、看護上の問題点を述べることができる。
2. 慢性疾患の病態、検査、治療経過について理解し、疾病や障害をコントロールするために必要な看護支援（セルフケア能力維持・向上、指導、合併症予防）について考えることができる。
3. 慢性疾患をもつ患者とその家族へ必要な看護支援の実際を理解し、到達目標を明確にし、看護過程の計画・実践・評価をすることができる。
4. 慢性疾患・機能障害をもつ患者の治療や生活支援に関わる保健医療チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携のありかたについて学ぶことができる。
5. 慢性疾患における看護実践を通じて自己の行動を振り返り、看護者としてのあり方や看護観について学ぶことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者と

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		しての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	単位認定に関係ない
--	--	---	-------------------------------------	-----------

テキスト： 特に指定しない

参考書： 特に指定しない

成績評価方法： 慢性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他（メッセージ等）： 健康レベル、ADLのセルフケア能力、疾患など、多様な疾病症状のコントロールのために入院して療養生活を送る成人期もしくは老年期にある人を対象として、看護実習を展開します。患者様およびその家族が病みの軌跡と共に生活する過去、現在、未来を把握し、その人を包括的にとらえ、必要な看護支援を見出す実習になります。熟考しながら進める実習になりますので、心身ともに学習準備をして臨んでください。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：母性看護学実習（Maternity Nursing: Practicum）

教員名：篠原好江、他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：90時間

概要：

母性看護の理念をふまえ、マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥・新生児の各期）にある女性とその家族に対するケアが実践できるための基礎的能力を養う。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 妊娠・分娩・産褥期及び胎児・新生児期の経過を関連づけて理解する。
- (2) 対象への関わりを通して対象が体験していることを理解する。
- (3) 対象の主体性を尊重したケアを実践する。
- (4) 家族メンバーの誕生がもつ意義を理解する。
- (5) 母子や家族をとりまく環境を理解する。
- (6) 対象の多様な価値観を理解する。
- (7) 必要なサポートシステムについて考える。
- (8) 母子ケアを行う際の倫理的課題について考える。
- (9) 母子保健チームにおける看護者の役割を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム		科目達成レベル	
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。
		◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		位認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：母性看護学実習要項、配布資料

参考書：

成績評価方法：実習評価表に基づき評価

その他（メッセージ等）：

実習中の援助を通して、学内の講義や演習等では得られない創造的な発見や多くの感動を体験し、生命の誕生に立会い家族の新しい一員を迎えるプロセスに関わることは、一人の人間としても貴重な体験になる。

授業内容(学修項目)

臨地実習：県内3～4施設において実習をする。（10月～2022年1月）

- （1）産褥早期の母子を受け持ち母子のケアを実践する。
- （2）出生直後の児のケアを見学実習する。
- （3）妊婦健診の関わりを通して妊娠期のケアを見学実習する。
- （4）母親学級や小集団指導などの保健指導を見学実習する。
- （5）機会があれば分娩期のケアを見学実習する。
- （6）機会があれば退院後の産褥期・新生児期の健康診査及を見学実習する。

区分名： 看護の実践

科目名（英語名称含む）：老年看護学実習（Gerontological nursing practicum）

教員名： 齋藤史子，坂本祐子，佐々木千佳，杉本幸子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ，必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：60時間

概要：加齢による生理的变化と健康問題を抱える高齢者を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解し、高齢者の健康の維持・回復、生活の質（Quality of life）の維持・向上を目指した看護実践を行う。また、在宅療養に向けて、あらゆる健康レベルの高齢者とその家族が必要としている支援について理解し、多職種と協働する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

目標：

1. 高齢者に積極的な関心を寄せ、尊重した態度で接することができる。
2. 高齢者の生活史、価値観、生活スタイルを統合し、高齢者を理解できる。
3. 健康問題を抱える高齢者を加齢に伴う身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解する。
4. 入院治療を受けなければならない高齢者にとって、生活環境の変化が、健康状態や日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。
5. 高齢者のもてる力に着目し、QOLの維持・向上を目指した看護目標・計画・実践・評価をすることができる。
6. 高齢者の在宅療養に向けた課題を把握し、高齢者とその家族が必要としている支援について考えることができる。
7. 施設で暮らす高齢者の生活を把握するとともに施設における看護専門職者の役割を理解することができる。
8. 実習を通して自己の高齢者観を深めることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せことが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せことが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

1. 北川公子,他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護第9版. 医学書院
2. 鳥羽研二,他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論,第5版,医学書院

参考書：

1. 正木治恵,他：老年看護学概論（第3版）「老いを生きる」を支えることとは,南江堂
2. 真田弘美,他：老年看護学技術（第3版）最後までその人らしく生きることを支援する,南江堂
3. 堀内ふき,他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害,第5版,メディカ出版
4. 堀内ふき,他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際,第4版,メディカ出版
5. 山田律子,他：生活機能からみた老年看護過程、第3版,医学書院

成績評価方法：

実習時間の5分の4以上の出席をもって単位認定とする。実習目標の達成度、実習中の態度、カンファレンスへの参加状況、実習記録、レポート、事前課題をもって行う。

その他（メッセージ等）：

高齢者の生活歴や取り巻く環境に関心を持ち、対象理解を深めましょう。また、高齢者のQOLの維持向上を目指した看護実践を行うために、加齢による生理的变化や健康問題についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：小児看護学実習（Child Health Nursing Practice）

教員名：和田久美子，古溝陽子，鈴木学爾、その他

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ，必修／選択：必修

授業形態：実習 ，単位数：2単位 ，時間数：90時間

概要：健康障害をもつ子どもと家族のおかれている状況を理解し、個々の発達段階を健康レベルに応じた援助ができるための能力を育む。健康障害を持つ子どもとその家族のアセスメントの実際について学習するとともに、それに基づいてケアの計画を立案し、子どもとその家族に対して必要な看護援助を行う。

（後日、詳細を提示する。）

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 対象とする子どもや家族に対し、看護者としての積極的な関心をよせながら、対象者との相互作用を通して、対象を深く理解する。
2. 看護の一連のプロセスを踏む中で、子どもとその家族に対して援助を行う。
3. 健康障害をもつ子どもとその家族の現状を理解し、小児看護の役割を考える。
4. 看護専門職者としての、自己のあり方考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	◎ 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：随時提示する。

参考書：随時提示する。

成績評価方法：実習への参加態度、実習記録およびレポートを総合して評価する。

その他（メッセージ等）：「小児看護学Ⅰ・Ⅱ」など、小児のケアに関連する内容について復習して臨んで下さい。

区分名：看護の実践

科目名（英語名称含む）：精神看護学実習（Nursing Practice for Psychiatric Patient）

教員名：佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子・大川貴子

開講年次：3年次，学 期：2021年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：90時間

概要：精神の健康上の問題のために生活を行ううえで困難を抱えている人を対象に、セルフケアの視点からその人を包括的に捉え、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指す援助のあり方を検討する。また、精神の健康障害をもつ人と関わるプロセスを通して自分自身を見つめながら、その人への関心を持ち続け、関係を築いていくことを目指す。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 精神の健康障害をもつ人と場をともにすることができる。
- 2) 精神の健康障害をもつ人との関わりの中で自分自身をみつめることができる。
- 3) 関わりの中で生じた精神の健康障害をもつ人の反応を捉えることができる。
- 4) 現在に至るまでのプロセスをふまえながら、精神の健康障害をもつ人を理解することができる。
- 5) 精神の健康障害をもつ人の疾患について理解することができる。
- 6) 精神の健康障害をもつ人が自分の状況をどのように受け止めているのかを理解することができる。
- 7) 精神の健康障害をもつ人が自身の「これから」についてどのように思い描いているかを知ろうとしながら関わるすることができる。
- 8) 精神の健康障害をもつ人のセルフケアについて、その人の力に焦点を当てながらアセスメントすることができる。
- 9) セルフケアのアセスメントに基づき、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指した援助を考えることができる。
- 10) 精神の健康障害をもつ人が地域で生活する上で必要となるサポートについて考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	実践の場で問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		認定の要件である
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案ができることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：指定しない

成績評価方法：実習での患者との関わり様子、カンファレンスでの発言内容、記録の内容、および、目標に対する学生の自己評価を踏まえ、目標に対する到達度で評価する。

その他（メッセージ等）：精神の健康上の問題を持ちながら生活を送っている方々に関心を向けながら関わり続けることで、皆さんの中に様々な疑問や気づきが生まれてきます。こうした、実習を通して皆さんが体験すること全てが学びの源泉です。患者さんなど実習の場であつた方々と向き合うだけでなく、自己とも向き合いながら、学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)：実習初日は、精神障害者が利用している福祉施設にて実習を行い、地域での生活体験について理解をする。実習2日目より精神科の病棟にて1名の患者を受け持ち、患者に関心を向けながら関わるプロセスの中で、患者のリカバリーを視野に入れながらセルフケアについてアセスメントし、必要な援助について検討していく。実習最終日は、学内カンファレンスを行い、他の施設で実習を行なった学生と共に、学びを深めていく。